

第1学年日本語・国語科学習指導案

指導者 増尾 恵美子
 ナイト 彰子

1 日時 令和5年11月17日(金) 2校時(9:50~10:35)

2 学年 第1学年 5名

3 単元名 せつめいする文しょうをよもう
 「じどう車くらべ」

4 単元の目標

国語科

- (1) 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2) ア
- (2) 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
 [思考力、判断力、表現力等] C (1) ア
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
 [学びに向かう力、人間性等]

日本語

- (1) 「仕事」と「つくり」のどちらについて書いてある文か、見つけることができる。
- (2) 「そのために」の意味が分かり、「仕事」と「つくり」の関係を文章から理解することができる。

5 単元で取り上げる言語活動

事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことを述べる活動

6 対象児童

	A児	B児	C児	D児	E児
来日時期	令和4年8月	令和5年1月	日本生まれ	日本生まれ	日本生まれ
滞日歴	1年2か月	11か月			
国籍	ネパール	ベトナム	ギニア	中国	中国
家庭内言語	ネパール語	ベトナム語	日本語	日本語、中国語	日本語、中国語
優位語	ネパール語	ベトナム語	日本語	日本語	日本語
話す	・二語文で話す ・語彙量が少ない。	・聞かれた質問にある程度答えることができる。 ・助詞や活用などの誤用が目立つ。	・身近な事柄を簡単な表現で話すことができる。 ・自分の思いを正しく表現することが難しい。	・教科学習語彙がある程度使える。 ・自分の思いや考えを十分に伝えることができない。	・ある程度まとまった話ができる。 ・会話に積極的に参加することができる。
読む	・ひらがな五十音表は、7割くらい読むことができる。	・ゆっくりであるが、だいたい文節や単語に区切って読むことができる。	・文章を読むことはできるが、読みながら内容を理解することは難しい。	・文や意味のまとまりに区切りながら、読むことができる。	・拗音などまだ読めないひらがながある。

7 指導形態

取り出し指導（少人数グループ）

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 ((2)ア)	① 「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C(1)ア)	① 進んで事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって、分かったことや考えたことを伝えようとしている。

9 単元について

(1) 児童観

入学して初めて出合った説明的な文章は、「くちばし」であった。鳥のくちばしについて問答形式で説明された文章であるため、クイズに答えているような楽しい気持ちで学習を進めることができた。

ここでは、説明的な文章には「問い」と「答え」があるという基本的なパターンを学んだ。入門期の児童なので、クイズ形式での問答を楽しみながら、くちばしの特徴と使い方の読み取りを行った。三つのくちばしについて書かれた文章を「問い」「答え」を色別に可視化して、順序に気を付けて読んだ。そして読み取ったことをクイズカードにまとめることで、くちばしの特徴と使い方についても理解することができた。

単元の最後には、これまでの学習を生かして興味をもった生き物のくちばしや口について、児童自身が読み取った内容をクイズカードの形にまとめる活動を設定した。しかし、児童自身で内容を読み取り、「形」「特徴」「食べ物」を適切に書きまとめることは難しいため、リライト本を使用した。クイズカードは児童の実態に応じて穴埋めのものを活用した。児童は関心をもった動物のリライト本を読んで、大事な言葉を選び、クイズカードを作ることができた。

A児に関しては、まだほとんど日本語が話せないため、読み取りの部分では、各くちばしの動作化のみを行った。学習後には関心をもった動物について、リライト本を読み聞かせ、「問い」と「答え」のみクイズカードに書いた。

C児に関しては、文字を書くことに抵抗があるため、重要な言葉だけ自分で書かせるようなワークシートを準備したり、本人の考えを聞き出し、それをなぞり書きできるよう支援した。

(2) 教材観

本教材「じどう車くらべ」は、児童が興味・関心を示すであろう身近な自動車を取り上げている説明的な文章である。普段から走っている自動車を見たり、乗ったりする経験があるので、学習への意欲も期待できる。

本教材文は、「それぞれのじどう車は、どんなしごとをしていますか。」「そのために、どんなつくりになっていますか。」という二つの問いの文に対して、三つの事例を挙げながら説明していく文章である。三つの事例は身近なものから順に挙げられており、説明の順にも「しごと」と二つの「つくり」で答えるという明確な文章構成で書かれているので、児童にとって内容が捉えやすいと考える。

「しごと」と「つくり」のつながりを示すために、文章だけでなく挿絵とともに考えたり、「そのために」という言葉に着目したりしながら読み進めることで、理解を深めることができる教材であるといえる。

(3) 指導観

日本語学習教室では、日本語・教科指導と日本語指導が連携している。日本語指導では、本文に出てくる文型や文末表現などの文法を、日本語・国語科では、学習言語を丁寧に確認し、読み取りを行っている。日本語指導、日本語教科指導では、毎時間、音読を取り入れ、日本語に親しむよう

にしている。本単元においては、自動車への興味や関心を高めるために、自動車のおもちゃの具体物を用意し、実際に手に取ることで、自動車の「つくり」を見付けやすくする。また日本語指導では、図鑑や本を用いて、自動車には多くの種類があることや自動車の部品名称について学習する。

また、以下の四つの指導の工夫を行うこととする。

一つ目の工夫は、本文の構成を視覚的に捉えることができるようにすることである。既習の「くちばし」の学習では、「問い」と「答え」を色別の線で囲むことで、構成を理解した。本単元でも、構成や学習言語である「そのために」という言葉に着目し、同じように線で囲むことで、「しごと」と「つくり」の関係について、理解できるようにしたい。それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」について、どのように述べられているかを視覚的に捉えることで、同じ文章構成のパターンが繰り返されていることに気付き、児童が内容を捉えやすくなると考える。

二つ目の工夫は、内容の大体を捉えるために、リライト教材を使用することである。この教材は、児童の日本語力に対応させ、主語を加筆したり、一文を短くしたりして作成する。既習の「くちばし」、「うみのかくれんぼ」はリライト教材を使って学習した。本単元でも、リライト教材を使用することで、日本語の習熟度に関わらず、内容の大体を捉え、学習に参加することができると思う。

三つ目の工夫は、児童の実態に応じたワークシートを用意することである。A児は、語彙が少なく、ひらがなを書くことも難しいので、大事な言葉だけを穴埋めさせる。C児は、書くことに対して苦手意識があるため、穴埋め式のワークシートを用い、グレー文字をなぞらせることで、抵抗なく書けるようにする。

四つ目の工夫は、効果的に他者と関わる学習を仕組むことである。教材の中の言葉を丁寧に取り上げ、児童の知っている言葉で説明をさせ、その言葉を使って文章を作らせる。また、動作化をさせることで関わりをもたせ、より言葉の理解が深まるようにしたい。

本単元における「関わり合い」の姿は、「しごと」と「つくり」の関係を確かめながら、自分の考えを他者と共有し、認め合う【互恵的な「関わり合い」】、見聞きしたことを自分の考えと比較する中で理解を広げたり深めたりする【累積的な「関わり合い」】である。「関わり合い」を手立てにしながら、「はなまるめあて」である「6ねんせいにおきにいりのじどう車をしょうかいしよう」という明確な相手意識や目的意識をもたせ、粘り強く学習に取り組むことができるようにしたい。日本語学習教室では、6年生に紹介する前に、取り出し指導をしている他学年の児童に紹介し、自信をもって学級での活動が行えるようにする。

1.0 単元の指導計画（7時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
0		<ul style="list-style-type: none"> ○自動車についての図鑑や本を読む。(学級文庫・図書室) ○いろいろな具体物に触れ、親しむ。 ○たくさんの乗り物が写っている写真を見て、いろいろな乗り物について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味をもてるように本や具体物を紹介する。 ・児童が普段、目にしている風景の写真を見せて、乗り物に興味をもてるようにする。 	
—	1	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車の種類について、知っているものを出し合う。 ○「じどう車くらべ」の範読を聞き、説明されていることを確かめ、学習の見通しをもつ。 ○学級の友達と一緒に、6年生にお気に入りの自動車を紹介するという単元のゴールを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの自動車がどんな仕事をしているかについても考えさせ、自動車に対する興味をもてるようにする。 ・お気に入りの自動車カードを作成することを伝え、学習意欲が高まるようにする。 ・学級の友達と一緒に、6年生に紹介するという単元のゴールを示すことで、学習の見 	

			通しがもてるようにする。	
二	2	○「じどう車くらべ」を読み、問いの文や出てきた自動車を確認、内容の大体を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した説明的な文章を想起することで、問いの文に着目できるようにする。 ・「しごと」や「つくり」などの意味を児童の言葉で言い換えることで共有し、次時からの学習の手立てとなるようにする。 	◎「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。〔思①〕【観察・発言】
	3・4	○バスや乗用車、トラックについて、「しごと」と「つくり」について関係付いていることを理解する。 ○「しごと」と「つくり」について分かったことを発表し、ワークシートに振り返りを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」と「つくり」を視覚的に捉えることができるよう、色別のカードを表示したり、教科書の本文を色別の線で囲んだりする。 ・文章構成を捉える中で、挿絵と文章を線でつなぎ、イメージの共有を図ることができるようにする。 	◎事柄の順序など情報と情報の関係について理解している。〔知①〕【観察・発言・記述】 ◎「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。〔思①〕【観察・発言・記述】
	5本時	○クレーン車の「しごと」と「つくり」について関係付けて読み、気付いたことを発表する。 ○「しごと」と「つくり」について分かったことを発表し、ワークシートに振り返りを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文を線で囲んだり、挿絵を示したりする。 ・動作化をすることで、クレーン車の「しごと」と、その特徴となる「つくり」について理解が深まるようにする。 ・A児とC児には、補助文の書かれたワークシートを用意し、振り返りを伝えることができるようにする。 	◎進んで事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって、分かったことや考えたことを伝えようとしている。〔主①〕【観察・記述】
	6	○三つの自動車を比較し、共通点や相違点を考えて気付いたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・三つの自動車は、それぞれの「しごと」に対して固有の「つくり」があることに気付くことができるようにする。 	
三	7	○はしご車について、絵を基に「しごと」と「つくり」を見付け、ワークシートにまとめる。 ○既習の自動車以外にも固有の「しごと」と「つくり」があることを知り、図鑑や画像から他に調べてみたい自動車	<ul style="list-style-type: none"> ・導入ではしご車の映像を見ることで、イメージの共有を図ることができるようにする。 ・はしご車の「しごと」を確認した後、絵から「つくり」を見付けて、仕事に合った「つくり」かを確認する。 ・これまで学習を振り返り、「しごと」と「つくり」の関係について想起させ、ワークシートにまとめる時の手掛か 	◎「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。〔思①〕【観察・発言・記述】

	を選ぶ。	りになるようにする。 ・自動車紹介カードを作成する際の意欲付けにする。	
--	------	--	--

1.1 単元のゴールの姿

「事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている」(思C(1)ア)のB基準の具体的な姿を以下のように設定した。

「そのために」という語に着目して、自動車の「しごと」と「つくり」について、関係付けて捉えている【観察・発言・記述】

- ・はしご車は、かじのときにたかいところにいる人をたすけるしごとをしています。そのために、ながいはしごがついています。
- ・はしご車は、かじのときにたかいところの火をけすしごとをしています。そのために、のびたりちぢんだりするはしごがついています。

1.2 本時の学習(第二次5時)

(1) 目標

国語科

クレーン車の「しごと」と「つくり」について、関係付けて読み、考えたことを伝えることができる。 [思①]

日本語

「そのために」の言葉に着目し、仕事に合った「つくり」は何か分かる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 クレーン車の挿絵を見て、本時の学習の見通しをもつ。		
2 めあてを確認する。		
クレーン車が、「しごと」をするために、どんな「つくり」になっているか かんがえよう。		
3 クレーン車について書かれている部分を音読する。	・二つの問い(①どんなしごとをしているか②どんなつくりになっているか)の答えとなる部分に着目しながら読むことができるようにする。	
4 動作化させて、言葉の意味を理解し、「しごと」と「つくり」を確認する。 ・重いものを吊り上げるために、しっかりした足が付いています。 ・重いものを吊り上げるために、丈夫な腕が伸びたり動いたりすると思います。	・「おもい」「つり上げる」「じょうぶな」「しっかりした」の意味が理解できるようにする。 ・「うで」や「あし」等の言葉の意味や役割を確認する。 ・構成や「そのために」という言葉に着目して、色別の線で囲むことで「しごと」と「つくり」を確認できるようにする。	

<p>5 クレーン車について書かれている部分を音読する。</p> <p>6 本時のまとめをする。</p> <p>7 クレーン車が実際に動いている映像を視聴する。</p> <p>8 本時の学習を振り返る。</p> <p>・クレーン車は重たいものを吊り上げる仕事をしています。そのために、丈夫な腕が伸びたり動いたりします。</p> <p>・クレーン車は重たいものを吊り上げる仕事をしています。そのために、しっかりした足がついています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文や経験から考えるように言葉かけをする。 ・A児、C児、D児には、具体物を見てから考えられるようにする。 ・「しごと」をするために役立つ「つくり」になっているか、友達と考えを出し合う【互恵的な「関わり合い」】 ・友達と一緒に動作化をしての関わりをもつことで、理解を広げたり深めたりする【累積的な「関わり合い」】 ・本時で分かったことを発表させ、まとめる。 ・クレーン車の腕が伸びたり動いたりする様子やしっかりとした足が付いている映像を見せ、本文の内容を確認する。 ・振り返ったことを全体で交流する。 ・振り返りを共有した後で、学習の足跡コーナーにシールを貼り、達成感や次時への意欲がもてるようにする。 	<p>◎「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。【思①】【観察・発言・記述】</p>
---	---	---

○本時のゴールの姿

A児 ・うでがあります。あしがあります。

B児 ・しっかりしたあしがついていることがわかりました。

C児・D児・E児

・おもいものをつり上げるときに、じょうぶなうでのびたりうごいたりすることが、わかりました。

・クレーン車は、車たいがかたむかないようにしっかりしたあしがついていて、すごいとおもいました。

十一月 十七日 きんよう日
じどう車くらぶ

めあて

クレーン車が、「しごと」をするために どんない
「つくり」になっているか かんがえよう。

なにが クレーン車

とい どんない「しごと」をしていますか。
どんない「つくり」になっていますか。

しごと おもいものをつり上げる しごとをしています。

そのために

つくり じようぶな うでが、
のびたり うごいたりする。

挿絵

つくり しっかりした あしが ついている。

まとめ クレーン車は、おもいものを つり上げるために、

じようぶなうでやしっかりした あしがついでい
る。

へわかったこと

・じようぶな...ふとい・つよい

二

・しっかりした

・かたむく...ななめになる